

興味・関心の拡がり⇒やってやって！⇒見て！見て！

「小学部は興味・関心を拡げることが大切」って、聞いたこと・言われたことありませんか？キレイなフレーズなので、「そーなのか」で終わってしまいがちですが…。こういう抽象的でキレイで、それ以上の意味合いを考えることへの思考停止に追い込まれがちな単語を「マジック・ワード」と言います。で、僕は初任の頃からこの言葉を「胡散臭いなあ…。その先が知りたいなあ。」と思っていたんですよ。「興味・関心の拡がりを盾にして、遊んで小学部が終わっていいのかよ！認知学習いい加減でいいのかよ？」って。先輩方に「その先は何なんですか？」って聞いても、イマイチ歯切れが悪い…。えーっと、「いずれ伝えることにつながる…」って。えーっ、誰が教えるの、コミュニケーション・スキル？…って。中学部までにコミュニケーション・スキルを教えないと結構そのまま高等部卒業になっていますけど…って。

さて、「小学部で興味・関心を育てる」の先にあるものの答えを、早速単刀直入に書きますが、答えのひとつは「自己実現」です。さてさて、なんで「小学部の興味・関心の拡がり」と「自己実現」がつながるのか???

ここで、先生自身に引きつけて考えるために、唐突に一つ質問をするのですが、

「あなたにとっての自己実現ってなんですか？」

と言われたら、答えることができますか？人生のステージ（年齢）によっても違うでしょうし、一人で叶える夢か？みんなで叶える夢か？（例えば、ラグビーで15人で金メダルを取るとか）とか、小さい自己実現成就なら人生で幾度も訪れるよね？（仕事上の大きな仕事をやり終えるとか）等、色々あると思います。そして、自己実現に大きく関わる技能が「社会性」です。えー、今度はさらに「社会性」が出てきたよ…。「興味・関心」と「自己実現」と「社会性」。この3つの繋がりをたとえ話をしながら紡いでいきます。

例えば、自分の部屋の中で誰とも関わらずに一生を終えるのであれば「自己実現」も何もないですよ。親も兄弟も恋人も同僚もいない。比較他者や思いを寄せる人がいなければ、「なりたい自分」になったところで、しょうがないんです。なので、自分以外の方が相手として存在して初めて「自己実現への願い・欲求」が出てきます。「あなたのために何かをしたい」とか。「みんなで喜びを分かち合いたい・幸せになりたい」とか。そして、そういう自己実現のためには「社会性」(＝他人とコミュニケーションを取りながら、連絡・交渉・調整する力)が必要ですよ。そして、この「自己実現」は人生自体の幸福感や、自分自身の誕生を肯定すること、逝き際の『良い人生だったな観』などにつながっています。ここまでが自己実現と社会性のつながりについて。

でもここで、特に重度と言われる知的障害のある人の中には、もう一つ問題が立ちまわります。

「えーっと、自己実現したいんでしょうか？本当に、この子は？」

…と。実は、発達のとても緩やかな児童を自己実現に向かうことができるように育てていくのも、実は特別支援学校の先生の仕事なんです。自己実現に向かう成長過程も研究が進んでいて、大卒の道筋は示されています。

- ①はじめは感覚刺激を含む原始的な欲求から始まって、(ブランコ、トランポリン、回転遊具など)
- ②「それ食べたい」「それ欲しい」という物的欲求に移り(大体小学部の生活単元学習が取り組んでいるのはこの辺までのニュアンスが多い)、
- ③やがて「先生、見て見て！」とか「先生、褒めて褒めてー！」という、「自分の中での出来栄え」を人に向けられた承認欲求につながり、
- ④より社会的なもの(価値観、道徳心、名誉、見栄)へと拡がりを見せていく…。

こんな感じ。

「右側図」を使ってまとめますが、「小学部の内にうんと興味・関心を広げる」とは、「自己実現」に向かっています。その為には「社会性」(＝他人とコミュニケーションを取りながら、連絡・交渉・調整する力)が必要で、その土台には、『自分の願い・夢・欲求』を「思考・判断・表現」するコミュニケーションが必要ですし、そもそもして『自分の願い・夢・欲求』は、「興味・関心に基づいた結果、好きになったもの・こと・人」が原動力になって生まれます。

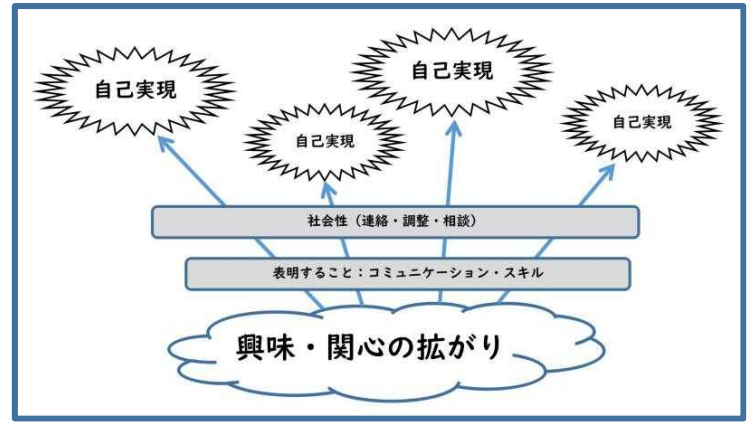


図1 興味関心と自己実現と社会性の関連図

「また、欠かせない大切な観点として、興味・関心の広がり自体を支える基礎的な学力（例えば姿勢の保持や目・耳・手の協応のさせ方、PECSなど伝達するための知識そのものなど）を保証していくことも大切です。…ということで、「小学部は興味・関心を広げることが大切」…は奥深かったでしょう？」

その②「子供の遊びは無理に切り上げてはいけない」は本当か？

もう一つ、関連事項で「興味・関心を広げる」となると同時に登場する『遊びの指導』について。「子どもの遊びを無理に切り上げてはいけない」と、言われたこと・聞いたことはありませんか？これも「何ですか？」と聞くと大抵「どっかで聞いた」とか「子どもの内なる世界が満たされるんだよ」とか「温かい感情が温かい大人を創るんだよ」とか、「ふわっ…」としたエモ系の答えが返ってきます。性格のいい方なら「そういうものか」と思うのでしょけれど、僕は「出た！思考停止ワード…。論理的・科学的に知りたいんだよ」って思うんです。で、調べていくとこのフレーズも社会性や自己実現に向かう発達と大きく関わっているんです。

「例えば、砂場で山を作っている子が、完成をさせた後に「見て見てー！」と、承認の要求を伝えてくれることが目に見えている場面ってあるじゃないですか。そういう姿は、社会性発達にとって大きなチャンス！まさに小さな「自己実現成就の瞬間」！そういう時に遊びを切り上げさせては、貴重な学びが成立しなくなっちゃいますよね。また、日をまたいで超大作を作ることってあるじゃないですか。秘密基地を作るとか。そういう場合は、その日できた分までは評価して、「また明日続きをしよう」と、一度切り上げを促して、翌日完成でオッケー。

「小さな自己実現が近い！」そういう時の遊びは「切り上げてはいけない（切り上げたらもったいない）」ですよ。でも、そうじゃなくって、教室に帰っても特段楽しいこともないので、ドラドラ移動しない…とか、「もう完全に自分の中の感触ワールドの住人…」いうのであればそれは別の問題。切り上げの環境づくりをした上で、自分でポジティブに切り上げられるようにできると良いです（「1曲分で切り替えて！」とか、予鈴を鳴らすとか、タイムタイマーを使うとか。①満たされるから②切り上げられるという抽象的なものではなく…。他方で、目標の再設定する（遊びを広げるとか体幹を鍛えるとか個から集団化するとか…）も良いですよ。

「一方で、現状の小学部の「遊びの指導」の課題としては、もっともっと「こんなふうなものを作りたい（積み木とか、マグフォーマーとか、粘土とか）」とか「もっと上手になりたい（的あてとか、お絵かきとか、ダンスとか、ぬり絵とか）」とか「もっとたくさん知りたい、仕組みを知りたい（図鑑とか）」、

「今はできてないよ。でもね、もうすぐスゴイのができそうなんだ!!!」

という、遊びの根幹を担う、構想-実施-表明-承認-反省-再構想-再実施…というサイクルにつながるものが圧倒的に足りていないので、小さい自己実現が起こりにくいように思います。結果、ただただ外で遊んでることも多い…。単なる追いかっこ、単なる築山ゴロゴロ、単なるアスレチックの反復では、学習効果はなかなか出ないのでは…と。なので、ねらいをもった教具・遊具がもっと増えるといいなと思うし、それこそが、今回の学習指導要領の問題発見・解決に向かう力や、情報を活用する力、言語利用の力という、学校教育が育てるべき「汎用的3能力」の育成につながる！なんて思ってます。そして、一人での自己実現も良いけど、友達や先生と、皆で向かう自己実現になるともっと²ステキ！これは集団設定遊びで！ですよ。最後に、自閉症圏の児童・生徒には、社会性・コミュを育てにくいという障害特性があることもお忘れなく。